社長の仕事～その４：設備を導入する

仕事を取って人を入れるのに合わせて設備も導入しなければならない。われわれ製造業ではまず必要なのが機械である。この仕事を何百個こなすのにどの機械が何台必要になるかなど大方予想が付けられるので、タイミングを外さずに手配する。これも社長の仕事である。実際に作業をする担当者に選ばせる会社もあるが、今後の受注予想はどうだの、こう言った製品を伸ばしたいだのということを一番わかっている社長がすべき事だと思う。そのかわり併せて購入する治工具の選定は担当者の仕事である。先代社長の時は旋盤中心の設備であったが、私になってからマシニングセンタを中心にしたことや、電気炉の購入の際大きな物を選定したことは今の当社の繁栄につながっている。
当社では設備にかける費用はいたって低い。売上に対して３パーセント程度である。われわれのような金属の加工を主とする会社では、常に最新で最高の機械を揃えなくては業界をリードできないと考えているところも多い。しかし、最新の機械を必要とする加工はほんの一部であり、あとは古い機械でも安い機械でもさほど変わりなく加工できるものである。その為当社では２０年以上の機械も平気で使用し、最新の設備は毎年２～３台ずつ導入する程度である。
機械の導入は規模の大小はあるものの毎年行うことであるが、建屋についても５年か１０年に一度は考えなくてはならない。私の会社は殆どの建屋が昭和４０年代くらいに建てた、いわゆるスレートぶきのものであった。おまけに住宅地となってしまったために新築や増築はほぼ無理、耐震基準も満たしていない物と思われた。そこで平成１５年くらいから数年かけて、法律内で可能な耐震補強と、壁、屋根の補強の工事を行った。平成２１年にあの東日本大震災が起こったが、ちょうど工事が完了した所だったので、被害を小さく抑えられたと思う。耐震工事を行っていなかった築３０年以上の事務所だけは結構な被害を受けた。ただ事務所は工場と違って規制が少なかったために、何とか建て直しをすることができた。
しかしながら受注の増大とともに、現行の敷地や建屋ではとてもこなす事が出来なくなっていた。そこで意を決して平成３０年に郊外の工業団地に分工場を建設した。本来町工場というのは町の中、特に家のそばにあってこそ力を発揮できるものである。家で夕食を食べてからまた仕事に戻るとか、夜勤の人に差し入れを持って行くとか、後継者も子供の時から職場を見て育つという事が重要である。しかし今の法律ではそれが不可能なので車で１０分程度の、最も近い工業団地を選んだ。しかし大きさは最低限、但し将来拡張できるように土地は少し多めに、建物は機械と同様にシンプルで安価なタイプとした。